



だいかん

大寒（20日）… 厳しい寒さに氷や霜柱が見られる日も …

わくわく池は、子どもたちにとっては無くてはならない自然との触れ合いスポットです。毎年この季節には、何度か池に氷が張ります。いろいろな状況が重なると凍りますが、今年はまさにこの大寒の日に全面結氷し、子どもたちは大興奮でした。

<款冬華 ふきのはな さく 1月20日～24日>

大寒の初候は「款冬華」です。青南幼稚園の裏庭は、実はおいしい食材の宝庫です。昨年4月にはフキの茎を採って帰り、家で料理しておいしくいただきました。そして今、小さなフキノトウが顔を出し始めています。

<多様な植栽の宝庫>

わくわく池から奥の裏庭には、手前から桃、ビワ、そして一番奥に柿の木があります。その下の植え込みには、みかん、南天、ミョウガ、白い彼岸花、そして一面にたくさんのフキが生えています。ミョウガや白い彼岸花は10数年前の先生たちが植えたそうです。みかんは、去年先生たちがプランターから移して地植えにしたものです。桃は毎年小さな実がなりますが、途中で落ちてしまいます。ビワは残念ながら私が赴任してからまだ一度も実っていません。柿だけは、毎年たくさんおいしい実りを届けてくれています。

<フキは一番広範囲に>

昨年5月の臨時休業中の小さなコラム「その8」で、私がこのフキを収穫し、自宅で料理したことをご紹介しました。「筋の通ったフ〜キ」は、幼稚園でよく歌うお弁当箱の手遊びに出てきますから、皆さんもご存じでしょう。7月末には、葉も青々とした葉っぱの上に、小さなオンブバッタがたくさんいて、あちこちに食べ跡の穴が開いていました。

<フキノトウは春の使者>

先日からお伝えしているように、柿の木の横に子どもたちと一緒に腐葉土を作るための土工場を作っています。土を掘る際に、子どもたちも小さなフキノトウを見つけていました。一部は掘ってしまいましたが、残っているフキの葉っぱの根元には、フキノトウがあちこちから顔を出しています。

一年で一番寒い時期ですが、次の季節の準備は確実に進んでいることを実感します。そして、一足早く届く春の便りがこのフキノトウです。



昨年の4月末、フキを収穫



自宅に持ち帰って、煮物にしてみました



5月末には大きな葉っぱがこの勢い



7月末にはオンブバッタが葉をムシャムシャ



1月20日頃のフキノトウ



1月末には少しだけつぼみが開いて



1月末には、一角を土工場に整備